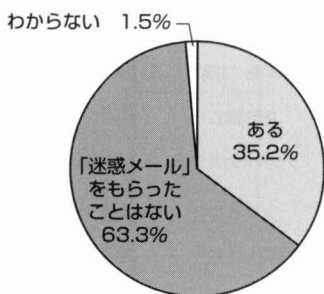


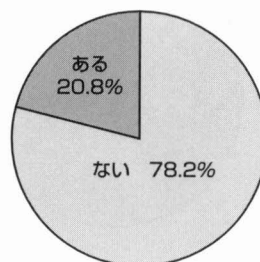
35%が迷惑メール経験あり、
2割が成人コンテンツ利用経験あり

資料1-2-42 迷惑メール受信の有無 N=1,481



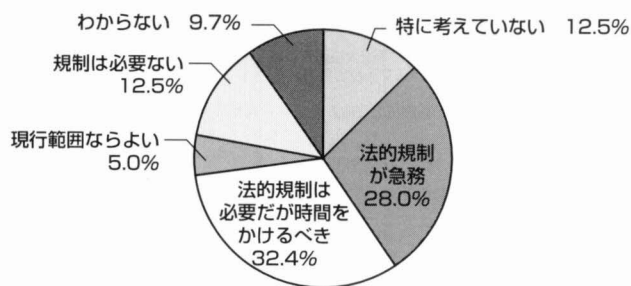
インターネット白書'99 ©インプレス,
Access Media International&IAJ, 1999

資料1-2-43 成人コンテンツ利用の有無 N=1,602



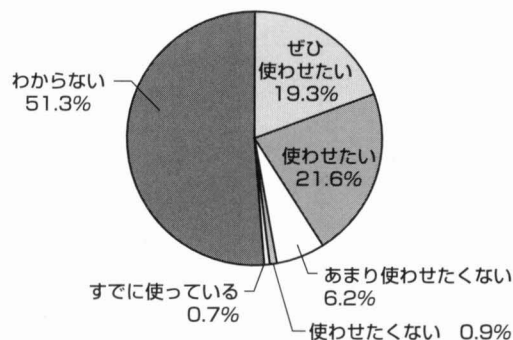
インターネット白書'99 ©インプレス,
Access Media International&IAJ, 1999

資料1-2-44 法的規制のあり方について N=1,606



インターネット白書'99 ©インプレス,
Access Media International&IAJ, 1999

資料1-2-45 家庭内の小・中・高校生にインターネットを使わせる意向 N=979



インターネット白書'99 ©インプレス,
Access Media International&IAJ, 1999

解説

「迷惑メール」に関しては、DMなどを受け取る側の捉え方によって大きく異なるため明確な定義はない。ここではそのような前提を踏まえて、これまで「迷惑メール」を受け取った経験の有無を聞いた。

その結果、35.2%が何らかの「迷惑メール」を受け取った経験があると答えている。

「成人コンテンツ」の利用有無については全体の20.8%がこれまで利用経験を持つと答えているが、ここには男女で大きな差はなく男性で21.7%、女性でも17.0%が利用したことがあると答えている。また、サンプルは小さいが、15～19歳でも20%となっている。この結果

は社会問題にもなっているようにインターネット上の「成人コンテンツ」が目につれやすいうことを反映しているといえる。

これら「迷惑メール」や「成人コンテンツ」の規制を含むインターネット上の法的規制のあり方についても聞いたが、全体の60.4%が何らか法的規制は必要だが時間をかけるべき」という回答が32.4%を占めており、法的規制に積極的ではない「現行範囲ならよい」(5.0%)、「規制は必要ない」(12.5%)、「特に考えていない」(12.5%)と答えた利用者を考慮すると、早急な結論よりは議論を尽くすことが求められているといえる。

上記のような「迷惑メール」や「成人コンテンツ」との接触状況に加えて、未だ法的規制は行われていない状況ではあるが、そのような前提をふまえた上で家庭内の小・中・高校生にインターネットを使わせる意向を聞いた。

ここでは「わからない」(51.3%)が過半数を占めるが、「あまり使わせたくない」(6.2%)、「使わせたくない」(0.9%)と利用に消極的な意向は低く、利用に積極的な意向が大きく上回っている。

(矢野さよみ)

アクセスメディア インターナショナル株式会社)



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp